

氏名	原 岡 昭 一
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 3 4 号
学位授与の日付	昭和37年7月16日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	老壮年者の心電図に関する研究
論文審査委員	教授 小坂 淳夫 教授 平木 潔 教授 西田 勇

学 位 論 文 内 容 要 旨

- 第一編 スカラー心電図
- 第二編 左室肥大心電図について
- 第三編 Ventricular Gradientについて

老壮年者の心電図の特長を明らかにし、併せて左室肥大判定規準に関する問題を明らかにする目的で正常青年、正常老壮年、高血圧症の3群につき比較検討した。

第一編において Orthogonal lead system である Frank 誘導を用いて、そのスカラー心電図を検討した。老壮年者は mean spatial T vector の減少を、高血圧症では elevational QRS-V° Angle, mean spatial QRS, T-magnitude の増大を認めた。左室肥大判定規準として $R_x + R_z \geq 2.0 \text{ mm}$ がより定量的であった。

第二編においては胸部 X 線上の左室肥大と従来の左室肥大判定規準を対比検討して、老壮年者の voltage は青年より低く、左室肥大判定規準も低い方がよい。また Nehb 誘導の有用性についても論じた。

第三編においては Ventricular Gradient (以下 VG と略記) を前額面水平面で求めた。老壮年は青年に比し VG は小となる。血圧の上昇につれて左後方へ移動し、left ventricular hypertrophy and strain pattern は VG の異常角度より Primary な変化と考えられた。

(第一編、第二編、第三編共に岡山医学会雑誌第74巻第1, 2, 3合併号掲載予定。)

論文審査の結果の要旨

原岡昭一提出の「老壮年者の心電図に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

老壮年者の心電図の特長を明らかにし、併せて左室肥大判定規準に関する検討を行う目的で、先ずスカラー心電図につき、Frank法を応用して検討を加え、老壮年者では mean spatial T vector は減少、高血圧群では血圧の上昇により QRS-mag. QRS-V° の増加がみられた。又左室肥大規準として $R_x + R_z \geq 2.0 \text{ mm}$ が適確であることを認めた。次に左室肥大心電図につき研究し、Nehb誘導を加えて検討した結果、老壮年者では $S_{V_1} + R_{V_6} \geq 2.8 \text{ mm}$ が合理的であることを証明した。更に Ventricular Gradient (VG と略) につき検討し、老壮年は青年に比し小となり、血圧の上昇につれ左後方に移行していることを認めた。又老壮年者の左室肥大及び strain pattern は VG の異常角度よりみて、一義的变化であることを証明している。

以上の所見は全く独創的な着想の下に生れた所見で、多くの新知見を含むところから、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せらるべき学力を有すると認める。